

Overview: 神の建造によって測られた後、私たちは主に仕えます。福音を宣べ伝え、兄弟姉妹を助けているとき、私たちは主を見つめ、主のために行うので、それは主に仕えることです。私たちが主に仕えるとき、自分の霊を活用して至聖所に進み出て、神の御前に出て、キリストを隠されたマナ、芽を出した杖、命の法則として享受する必要があります。

I. 「イスラエルが迷ったとき、私から遠く去って行き、自分たちの偶像を慕って私から迷い出たレビ人は、自分たちの罪科を負わなければならない。彼らは私の聖なる所で務めをし(仕え)、家の城門で見張りをし、家で務めをしなければならない。彼らは民のために全焼のささげ物と犠牲をほふり、彼らの前に立って、彼らに対して務めをしなければならない。…しかし、ザドクの子たちであるレビ人の祭司たち、すなわちイスラエルの子たちが私から迷って行ったとき、私の聖なる所の任務を守った者は、私に近づいて来て、私に対して務めをし、私の前に立って、脂肪と血を私に献げなければならないと、主エホバは告げられる。彼らは私の聖なる所に入り、私の食卓に近づいて来て私に対して務めをし、私の任務を守る」(エゼキエル44:10-11、15-16) :

- A. 神の目には、家に仕える奉仕があるだけではなく、さらにまさった奉仕、すなわち、主に仕えることがあります。
- B. 神にはただ一つの目標があります。それは完全に「私」に属している人を得ることです。言い換えれば、彼は私たちが「私」の御前にいて、「私」に仕えることを欲しています。神の唯一の目標は、多くの事柄にあるのではなく、「私」にあります。
- C. 主に仕えることは、私たちが家を無視することを意味するものではありません。主に仕える人たちはまた、福音を宣べ伝えて罪人を救い、兄弟姉妹を助けて前進させます。しかし、彼らの唯一の目標は、主のためであり、彼らが見ているのは主ご自身です。彼らは完全に主のゆえに人を尊びます。
- D. 私たちは主の御前に来て、ただ彼だけを見つめるなら、自然に兄弟姉妹に仕えることができるようになります。主に仕えているかどうかというこの問題は、主が私たちの心の中で第一位を占有しているかどうかにかかっています。
- E. 私たちが主に仕えることにおいて行なうことは何であれ、主のためであるべきです。それは彼の満足、心の願い、幸い、目標、喜び、栄光のためであるべきです。
- F. 主の働きにも、私たちの肉を引き付け魅了する領域があります。なぜなら、それらは完全に私たちの自己の喜びと栄光のためであるからです。
- G. 主に近づかず、祈りにおいて主に近寄ることなしに、主に仕えることのできる人はいません。霊的な力は、宣べ伝える力にあるのではなく、祈る力にあります。私たちがどれほど祈るか、私たちがどれほど内なる力を真に持っているかを示します。
- H. 私たちは至聖所において主に仕えたいなら、主の御前でさらに多く時間を費やし、さらに多く祈らなければなりません。私たちが彼に近づき、彼の御前に立ち、彼のみこころを待ち望む必要があります。
- I. 祈ることは、神の御前に立つことです。それは彼の御前で彼のみこころを尋ね求めて、僭越の罪から救われることです。
- J. 主に仕える者たちは、脂肪と血を彼に献げなければなりませんでした:

1. ささげ物の脂肪はキリストのパーソンの尊さを予表しますが、血はキリストの贖いの働きを表徴します。
 2. 私たちは神に仕えるとき、この両方を彼に献げなければなりません。血は神の聖と義のためであり、脂肪は神の栄光のためです。
- K.** 主に仕える者たちは亜麻布で作られた衣服を着なければならず、毛織り物を身に着けたり、汗の出るような物を身に着けたりしてはなりませんでした:
1. 亜麻布の衣服は、命を与える霊の中での、キリストの命による日常生活と歩みを表徴します。そのような生活と歩みは、純粋で、清く、細やかです。
 2. 毛織り物は祭司たちに汗を出させました。それは墮落した人が神ののろいの下で、神の祝福がなく、自分自身の能力と力によって労苦するというしるしです。
 3. 汗が出る働きとは、人の努力から生じる働きであり、父なる神からの祝福がありません。主に仕

II. 「第二の幕の後ろにある幕屋は、至聖所と呼ばれています。そこには……全面、金で覆われた契約の箱が有って、その中には、マナが入っている金のつぼと、芽を出したアロンの杖と、契約の板とがありました」(ヘブル9:3-4) :

A. 隠されたマナは、私たちと神との間に距離がないときに、神の御前で私たちが享受するキリストの分け前です。私たちと主との間に距離がないとき、私たちは最も親密で隠された方法でキリストを享受します。これが隠されたマナ、隠されたキリストの分け前を享受することです:

1. ペルガモに在る召会における状態に勝利を得ることは、今日のキリスト教の一般的な実行から私たち自身を分離し、神の御前にとどまって、何か別のものに仕えるのではなく、直接神に仕えることです。ここで私たちはキリストからのものを享受します。それは彼の御前から遠ざかっているすべての者が味わうことのできないものです。
2. 私たちが隠されたマナを享受したいなら、私たちと神との間に距離があってはなりません。私たちと主との間の距離は、すべて除き去られなければなりません。
3. 私たちは主に仕え、彼を隠されたマナとして享受するとき、彼との直接の交わりを持ち、彼の心と意図を知ります。主の臨在の中で、彼は私たちに彼と、彼の意図と、彼が私たちに言わなければならないことを託すことができます。
4. 私たちは主に仕えるとき、神の委託を持ちます。なぜなら、私たちは神の御前におり、私たちと神との間には何の距離もないことを認識しているからです。

B. 芽を出した杖が表徴するのは、復活した方であるキリストが私たちの命、私たちの生活、私たちの内側にある復活の命であるべきであるということです。この命は芽を出し、開花し、実を結んで円熟すべきです:

1. イスラエルの子たちが反逆した後、民数記第16章において記録されているように、神が十二人の族長たちに命じたことは、イスラエルの十二部族にしたがって十二本の杖を取り、それらを証しの天幕の中にある契約の箱の前に置くことでした。それから彼は言われました、「私が選ぶ人の杖は芽を出す」。
2. 十二本の杖はすべて葉がなく、根がなく、乾いており、枯れており、死んでいました。芽を出した杖が、神によって選ばれた杖でした。ここで私たちが見るのは、復活が神の選びの根拠であるということと、奉仕の根拠が私たちの天然の命の外にあるものであるということです。こういうわけで、芽を出した杖が表徴するのは、私たちが復活のキリストを経験して、神に受け入れられ、神の与えられた務めにおいて権威を持つということです。
3. あらゆる奉仕の原則は、芽を出した杖にあります。神は十一本の杖をすべて族長たちに戻しましたが、アロンの杖を契約の箱の中に保存し、永遠の記念としました。これが意味するのは、復活が神に仕えることの永遠の原則であるということです:
 - a. 復活が意味するのは、すべてのものが神からであって、私たちからではないということです。復活が意味するのは、ただ神だけができ、私たちはできないということです。
 - b. 復活が意味するのは、すべてのことが神によってなされるのであって、私たちによってなされるのではないということです。復活を認識している人はみな、自分に絶望しており、自分にはできないということを知っています。
 - c. 天然の力が残っている限り、復活の力は現されることができません。サラが自分で産むことができる限り、イサクは生まれなかったでしょう。
 - d. 私たちができることは、天然の領域に属します。私たちができないことは、復活の領域に属します。人は自分の終わりに来なければなりません。そうしてはじめて、人は自分が全く役に立たないことを確信します。
 - e. もし人が自分のできないことを認識したことがないなら、決して神のできることを経験することはできません。復活が意味するのは、私たちはできないということと、神がすべてのことを行なった方であるということです。

C. 契約の板、すなわち、律法の板が表徴するのは、神聖な命の法則、すなわち、神聖な命の自然な力、自動的な機能、本来の性能、神聖な能力です:

1. 命の法則、この神聖な能力は、私たちの中ですべてのことを行なって、神のエコノ

える人はみな、汗が出ない働き、人の努力や肉体的な力のない働きを行なわなければなりません。

4. 私たちが神の臨在の中で十分な時間を費やし、彼と適切にやりとりを持つなら、人の前で汗を出す必要はありません。私たちは最小の力をもって最大の働きを成し遂げることができます。
- L. 「さて、アンテオケの地に在る召会には……預言者たちと教える者たちがいた。彼らが主に仕え、断食していた時、聖霊が言われた、『さあ、バルナバとサウロを私のために選び分け、私が彼らを召した働きに当たらせなさい』」(使徒13:1-2)(第四日):
1. これは新約の働きであり、新約の働きの唯一の原則です。それは、主に仕えるときのみ、聖霊の働きは啓示されることができるといことです。
 2. 主に仕えるときのみ、聖霊は人を遣わします。主に仕えることを最優先にしないなら、すべてのことは順序が狂ってしまいます。聖霊だけが人を遣わして働かせる権威を持っています。
 3. 主に仕えることは、外側のすべての働きをしないことではありません。そうではなく、外側のすべての働きは、主に仕えることに基づいているべきです。
 4. 私たちは主に仕えることのゆえに出て行くのであって、主に仕えることを根拠としていない私たち自身の願いのゆえに出て行くではありません。

ミーを完成することができます:

- a. この能力にしたがって、私たちは神を知り、神を生き、神の命と性質において神をもって構成されることができます。それは私たちが彼の増し加わり、彼の拡大となり、彼の豊満となって、彼を永遠に表現するためです。b. さらに、命の内なる法則の能力は、私たちをキリストのからだの肢体に構成し、あらゆる種類の機能を持たせます。
2. 神聖な命が私たちの中で成長するとき、命の法則は機能して私たちを神の長子であるキリストのかたちに形づくり、同形化します:
 - a. 命の法則は間違っただけの事を行なうことを規制するものではありません。それは規制して命の形が出てくるようにします。b. 命の法則が機能するのは、おもに消極的な面で私たちに何を行なうべきではないかを告げることにあってではありません。そうではなく、命が成長するとき、命の法則は積極的な面で私たちをキリストのかたちに形づくり、同形化することにおいて機能します。c. 命の法則の機能を通して、私たちがみな神の円熟した子たちとなり、神はご自身の宇宙的な表現を得ます。

第一日: [エゼキエル 44:10-11、15](#)、アウトライン I

第二日: [エゼキエル 44:15-16](#) アウトライン I

第三日: [エゼキエル 44:17](#) 彼らは内庭の城門に入るとき、亜麻布の衣服を着なければならない。内庭の城門とその中で務めをするときは、毛織り物を身に着けてはならない。18 彼らは亜麻布の巻き頭きんを頭にかぶり、亜麻布のももひきを腰に着けなければならない。汗の出るような物を身に着けてはならない。

創3:19 あなたは額に汗してパンを食べ、ついに土に帰る。あなたは土から取り出されたからだ。あなたはちりだから、ちりに帰る」。イザヤ30:15 まことに、主エホバ、イスラエルの聖なる方はこう言われる、「立ち返って安息するなら、あなたがたは救われる。落ち着いて信頼することの中に、あなたがたの力がある」。しかし、あなたがたはそうしないで [マタイ11:28](#) すべて労苦し重荷を負っている者は、私に來なさい。そうすれば、私はあなたがたに安息を与える。29 私は心の柔和なへりくだった者であるから、私のくびきを負い、私から学びなさい。そうすれば、あなたがたは魂に安息を見いだす。30:なぜなら、私のくびきは負いやすく、私の荷は軽いからである」。

第四日: [エゼキエル 44:16](#) アウトライン I

使徒 13:1-2 アウトライン I の L

第五日: [ヘブル 9:3-4](#) アウトライン II

出16:33 モーセはアロンに言った、「つぼを取って、マナを一オメルいっぱいその中に入れ、それをエホバの御前に置いて、代々にわたって保存しておきなさい」。34 エホバがモーセに命じられたように、アロンはそれを証しの板の前に置いて保存した。

第六日: [民 17:8](#) その翌日、モーセは証しの天幕に入って行った。すると見よ、レビの家のアロンの杖が芽を出し、つぼみを付け、花を咲かせ、アーモンドの実を結んでいた。

[エレミヤ31:33](#) しかし…私がイスラエルの家と結ぶ契約はこれであると、エホバは告げられる。私は私の律法を彼らの内なる各部分に置き、それを彼らの心に書き記す。私は彼らの神となり、彼らは私の民となる。

[マタイ19:26](#) イエスは彼らを見つめて言われた、「それは人にはできないが、神にはすべての事ができる」。マルコ10:27 イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはできないが、神はそうではない。神にはすべての事ができるからである」。ルカ18:27 イエスは言われた、「人にはできない事でも、神にはできる」。Ⅱコリント1:8 兄弟たちよ、アジアで私たちに降りかかった患難について、あなたがたに知らずにもらいたくありません。すなわち、私たちは極度に、耐えられないほどに圧迫されて、生きる望みをさえ失ったほどです。9 実に、私たちは自ら、自分自身のうちに死という答えを持ちました。それは、私たちが自分自身に信頼するのではなく、死人を復活させる神に信頼するためでした。4:7 しかし、私たちはこの宝を土の器の中に持っています。それは、この卓越した力が神のものであって、私たちからではないことが現れるためです。

《預言ノート》

経験①: 主の御前に出て、御声を聞き、すぐに聞き従う

主に仕えることの基本、主に仕えるための基本的要求は、主に近づくことです。それは大胆に御前に近づき、…御前に立つことです。…神に近づくことなしに、神に仕えることはだれにもできません。祈りの中で主に近づくことなしに、主に仕えることのできる人はいません。霊的な力は、宣べ伝える力にあるのではなく、祈る力にあります。私たちがどれほど祈るか、私たちがどれほど内なる力を真に持っているかを示します。どんな霊的なことも、祈り以上の力は要求されません。

(御前に)立つとは何でしょう？ それは命令を待つこと、みこころが語られるまで主を待つことです。神の御前には二種類の罪があるだけです。一つは主の命令に背く罪です。もし主が命令を与えられるのに、それをしないなら、それは罪です。しかし、もう一つの罪があります。それは主の命令もないのに何かを行なうことです。一つは反逆の罪であり、もう一つは僭越(せんえつ)の罪です。一つは主の言われたことを無視し、もう一つは主が言われないのに行なうことです。

私たちは至聖所において主に仕えたいなら、主の御前でさらに多く時間を費やし、さらに多く祈らなければなりません。私たちは彼に近づき、彼の御前に立ち、彼のみこころを待ち望む必要があります。ですから、祈ることは神の御前に立つことです。それは御前で彼のみこころを求めることです。

在職青年・奉仕編

主の御前に立つとは、主の御前に進み出て、主の御声、命令を待つことです。あなたはひとたび主の命令を聞いたなら、直ちに行動に移さなければなりません。また、主の命令を聞いていないのに、自分の意見に従って行動してはいけません。これは越権行為です。墮落した人は、主の命令を聞いても、ぐずぐずしてすぐに実行しません。アダムとエバの失敗は、「善悪知識の木から取って食べてはならない」という主の命令を、聞いてすぐに実行しなかったので、サタンが入って来たのです。もし彼らがすぐに反応していれば、サタンは入って来る余地がなかったでしょう。

創2:16 *そして、エホバ・神はその人に命じて言われた、「あなたは、園のどの木からでも自由に食べてよい。17 ただし、善悪知識の木からは、食べてはならない。それから食べる日に、あなたは必ず死ぬ」。*

会社においても、あなたは自分の権限がどこまでなのか、誰がそれを決定する権限を持っているのか、誰がプロジェクトのリーダーなのかということを明確に理解する必要があります。なぜならあらゆる権限は、主によって立てられている、あるいは主が目的のために、その権限が立てられることを容認しているからです。この権限を理解せずに業務を行うと、多くの時間を浪費することになったり、混乱をもたらすことになります。人は高ぶっているため、権限を持ちたがりです。しかし、ここでの論点は、物事を正しく、効率良く進めるために、誰がどこまでの権限を持っているのかということを明確に理解することです。権限を持つことを願ったとしても、実際に持っていないければ、その権限がないので、行使できません。願望と事実は別です。客観的に正しく理解してください。このことはあなたのビジネス・ライフの成功を決定付ける極めて重要な点ですので、避けて通ることは決してできません。

ある人は一生懸命業務に取り掛かるのですが、業務上の権限に関する正しい認識を持っていません。その結果、長い時間をかけて行ったことがすべて無駄になってしまいました。なぜなら彼はすべきでないことを行っていたからです。このような人は業務の方向性を自分で決定するのではなく、権限を持っている上司に確認した上で、進めるべきなのです。それはあなたが知識があるかどうかの問題ではなく、権限があるかどうかの問題です。

このことは、召会の中の奉仕についても同じです。あなたは必ずリーダーの指示に従い、からだの中の組み合わせの中で奉仕してください。同時に、あなたは霊を活用して至聖所に進み出て、神の御声、命令に聞き従う必要があります。主があなたに、「指導者の指示に従いなさい」と言う声を聞いたなら、あるいは「福音に出ていきなさい」という声を聞いたなら、あなたは直ちに聞き従い、実行してください。そうすれば、あなたは祝福されます。

経験②: 自分ができないことを認めて、キリストの復活を経験する

芽を出した杖は、神の民の建造と関係があります。…芽を出した杖が表徴するのは、復活した方であるキリストが私たちの命、私たちの生活、私たちの内側にある復活の命であるべきであるということです。この命は芽を出し、開花し、実を結んで円熟すべきです。

もし人が自分のできないことを認識したことがないなら、決して神のできることを経験することはできません。復活が意味するのは、私たちはできないということと、神がすべてのことを行なった方であるということです。

復活を認識している人はみな、自分に絶望しており、自分にはできないということを知っています。天然の力が残っている限り、復活の力は現されることができません。サラが自分で産むことができる限り、イサクは生まれなかったでしょう。私たちのできることは、天然の領域に属します。私たちのできないことは、復活の領域に属します。…人は自分の終わりに来なければなりません。そうしてはじめて、人は自分が全く役に立たないことを確信します。

中高生編

大学受験や高校受験は、あなたが主を実際に経験する良い機会です。受験勉強におけるあなたに対する主の要求は、主があなたに与えた能力を、完全に使い切るということです。完全に能力を発揮させるためには、あなたは必ずキリストを経験する必要があります。

マタイ25:20 *すると、五タラントを受けた者が来て、ほかに五タラントを持って来て言った、『ご主人さま、あなたは私に五タラントを渡されましたが、ご覧ください、ほかに五タラントをもうけました』。21 主人は彼に言った、『よくやった、良い忠信な奴隷よ。あなたはわずかな事柄に忠信であった。私はあなたに多くの事柄を管理させよう。あなたの主人の喜びに入りなさい』。…*

24 *一タラントを受けた者も来て言った、『ご主人さま、あなたは厳しい人で、まかなった所から刈り取り、散らさなかった所から集めることを、私は知っていました。25 そこで私は恐ろしくなり、去って、あなたのタラントを地に隠しました。ご覧ください、これがあなたのものです』。*

26 *主人は彼に答えて言った、『邪悪で怠惰な奴隷よ。あなたは、私がまかなった所から刈り取り、散らさなかった所から集めることを知っていた。27 それなら、私の銀貨を両替人たちに預けておくべきであった。そうすれば、私が帰って来た時、利子と共に私のものを受け取ったであろう。』*

マタイ25:14~30によると、5タラントを持つ者は、もう5タラントを、2タラントを持つ者は、もう2タラントを、1タラントを持つ者はもう1タラントを儲けることが要求されています。さらに、5タラントを儲けた者も、2タラントを儲けた者も、主の目からは同じであるので、誉め言葉も同じでした。ですから、あなたはどれだけ儲けるかではなく、どれだけ自分に与えられた能力をフルに活用するかに注意を払ってください。言い換えると、すべての人に神戸大学に行くことが要求されているわけではありません。

26節で主は、私たちに対する要求が厳格であることを認めておられます。一見すると、主は、「まかなった所から刈り取り、散らさなかった所から集める」方です。しかし、新約の原則によると、主が要求される時、主の恵みの供給は要求以上に豊かです。主の御名を呼び、自分の欠点を告白し、キリストを経験してください。そしてあなたの能力が完全に活用されることができるよう。

受験勉強において自分の能力をフル活用するために、あなたは自分には知恵、理解力、暗記力、集中力、忍耐力、持続力が足りないことを理解してください。もちろんあなたにはこれらの能力がありますが、それらは十分ではありません。

例えばあなたは英語などの言語を学ぶ能力が高いです。しかし、あなたの怠惰や集中力のなさがこの能力をフルに発揮させることを妨げています。墮落した人はバランスが悪いので、自分で自分を救うことができません。このような場合、まずあなたはキリストを集中力、忍耐力、持続力として経験すべきです。

それだけでなく、あなたの言語を学ぶ高い能力ですら墮落によって傷ついているので、主の命によって再建され、さらに豊かにされるべきです。このようにして、あなたの言語を学ぶ高い能力はフルに活用されることができるよう。自分には「ない」ことを認めないと、復活の中でキリストをその実際として経験することはできません。霊を活用して主の恵みを享受し、喜びをもって受験勉強を突破してください。

Ⅱテモテ4:22 *主があなたの霊と共にありますように。恵みがあなたと共にありますように。*

- 1 至せい所に入り, まくのうちで生き,
めぐみの座に触れ, 生けるみず通す。
- 2 わが霊,至せい所, 主はわが霊に住む;
ただ霊にいるなら, かれにまみえる。
- 3 復かつのかおり, 霊にありはなたれ,
霊にあるいのりで, 主を発びようする。
- 4 ひかりと糧しよく, 主の豊富きょう受し,
復かつのかおりが それにくわわる。
- 5 さらに主に触れ, ますます主を得る;
いのちの法そくと, マナとして得る。
- 6 復かつに触れて, 枯れたつえ,芽吹く;
ここに御座があり, めぐみなされる。
- 7 あつまり,いのり, 霊,解放し,調和する,
そこは至せい所で, われ,主に触れる。
- 8 この至せい所で, 祭司のせいかつし,
御座に多面で触れ, みず,ながし出す。

#556 祷告—在至圣所里

- 1 我要进入至圣所, 幔子里面过生活,
摸主施恩的宝座, 让主活水来流过。
- 2 我灵就是至圣所, 主在里面今住着;
只要回到灵里面, 我就与主得相见。
- 3 复活基督的馨香, 调在灵里来发放;
在灵里面我祷告, 祂就藉此得发表。
- 4 摸着灵里的基督, 就必饱尝祂丰富:
生命亮光、生命粮, 加上复活的馨香。
- 5 越摸越深越丰富, 摸着深处的基督:
摸着生命的律法, 摸着隐藏的吗哪。
- 6 摸着复活蒙悦纳, 如同枯杖发了芽;
在此才有施恩座, 恩惠流出如江河。
- 7 我们聚集同祷告, 灵得释放并相调,
也是进入至圣所, 在此能将主摸着。
- 8 我们在这至圣所, 同过祭司的生活,
多方摸主施恩座, 直到活水全流过。

Hymns,#769 Prayer - In The Holiest

- 1 To the holiest place I'd come,
There within the veil to be;
There to touch the throne of grace,
Let Life's water flow thru me.
- 2 Now the holiest place of all
Right within my spirit is;
Here the Lord in me abides,
And my spirit joins with His.
- 3 To my spirit I'd return,
For 'tis here the Lord I'll meet;
O how marvellous it is!
He's within, in me complete.
- 4 Fragrance of the risen Christ
Thru my spirit may be spread;
If in spirit I will pray
Christ will be exhibited.
- 5 If in spirit Him I touch,
With His riches filled I'll be;
Life and light and love and grace
As a stream will flow thru me.
- 6 Touching deeply, richly I
Of Himself experience,
Thus the law of life I touch
And His clear anointing sense.
- 7 In my spirit deeper still
I would touch the Lord I love,
Touch Him in His hidden depth
And His hidden manna prove.
- 8 When the resurrection life
Is made real in pow'r to me,
As the rod with sprouting buds,
I will then accepted be.
- 9 Here I find the throne of grace,
Where the living water flows
As a river full of grace
Into me grace to bestow.
- 10 Then whene'er we meet to pray,
All our spirits we'll release;
Mingled will our spirits be,
And we'll serve the Lord as priests.
- 11 This is the holiest place is too,
Where we all may touch the Lord,
Touch His throne in many ways
Till His grace on us is poured.